

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成22年5月30日

財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 法学研究科

職 名 教授

氏 名 林 信 夫

事業区分	平成21年度・学術研究書刊行助成		
刊行書名	ラテン語法格言辞典		
著者(編著者)名	柴田 光蔵 林 信夫 佐々木 健		
発行者名	村岡侖衛／有限会社 慈学社出版		
発行年月日	平成22年 5月30日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。合わせて、刊行書を1冊ご提出下さい。		
会計報告	直接出版費 (内訳は下記のとおり)	2,969,059円	
	収入見込額 (著者負担・売上見込)	2,069,059円	
	当財団からの助成額	900,000円	
	直接出版費の内訳		
	費目	金額 (円)	備考
	組版代	1,401,200	
	製版代	182,800	
	刷版代	271,000	
	印刷代	402,000	
	用紙代	270,675	
製本代	300,000		
消費税	141,384		
合計	2,969,059		

法や法学の基礎的な考えは、万人への戒めや教訓となるように、簡潔な言葉にまとめられ、格言という形で伝えられることも多い。特に法と法学が発達した古代ローマでは数多くの法格言が残され、その伝統を引き継いだ後のヨーロッパ世界でも、当時の共通言語であり学術用語であったラテン語を依然として用いた法格言が流布し、一方ではローマ時代以来の考え方が保存され、他方では同時代に通用するよう考案されたと思われる法格言が生み出された。

こうして今日まで伝わる多くの法格言について、共同編集者の一人、柴田は長年にわたって検討作業を進めてきた。その成果は順次公表され、既に『ローマ法の基礎知識』（有斐閣 1973年初版）や『法律ラテン語格言を読み解く——ローマ法へのアプローチ〔最終版〕』（ゆうら書院 1999年）等の著作において、個々の法格言に対して解説を付すという形が採用されてきた。

本書では、可能な限り多くの法格言を採録するという基本方針に立ち、共同編集者として林及び佐々木が加わった上で、解説を付すことはせず、編者3名により翻訳文と出典を正確で伝わりやすいものにすることを目指した。この点で、既刊の諸本と併せた全体を形成しているものである。

ラテン語で表現される法格言は、今日でも欧米各国の法学文献のみならず一般向けの書籍においても、法的な準則を伝えるに際して有用であると考えられるため、しばしば引用されることがあり、日本において法学を含む社会科学や人文科学、あるいは自然科学に関心を有する研究者や一般読者にとっても、ラテン語による表記であれ日本語に翻訳された形であれ、こうした法格言を目にすることは珍しくない。実際、読者の多くがラテン語の素養を日本以上に有するものと想定されるドイツやイタリア、あるいは英語圏など欧米各国でも、ラテン語法格言を収集した辞典の類は版を重ねて刊行され続けている。本書の編集に際しては、こうした欧米の動向を踏まえ、各国の出版物の編集方針を参照しつつ、ローマ法や法律学の「伝統」が上記各国との比較においては短いと言える我が国の特徴を活かす形で、ローマ法に由来する格言のみならず、英米法で用いられる格言をも収集し、両者をほぼ同数、採録することが出来た。

本書を利用することになる読者にとっては、何らかの文献その他で見出したラテン語法格言が、果たしてどのような由来・起源を有するのか、そもそも判然としないことが多いであろう。そこで本文において、確認できる出典を略記することとし、どのような地域、どのくらいの年代でその存在が知られているのか、おおよその情報を得られるよう配慮した。また、ラテン語の特徴として、語順が比較的自由に入れ替え可能であるということがあり、辞典を参照する利用者にはそのことが不便を生じさせる場合も少なくない。この点も考慮し、また相互に類似する法格言も採録することとした上で、巻末に邦語索引及びラテン語索引を設けて、読者の便を図った。そのため、当初の想定よりも頁数が増加し、経費も必要となった。

こうしたことから、いわゆる商業出版によることは不可能と考えられた。また内容が専門的になり、ローマ法や法制史に関する基礎知識を有しない一般読者が購入することは想定しづらい。そのため、商業出版に耐え得る出版部数を望むことは不可能であり、貴財団による学術書刊行助成金の補助によって初めて、本書の刊行が可能となったものである。編者一同、貴財団による助成に対して深く感謝の意を表す。